

抱えた悩み多き若者の本格的支援に踏み込んでみないか。

**A** 大村市には若者を対象とした相談窓口は無い。就職支援を担うフレッシュユウワーク大村を、若者が集う場、結婚等様々な相談ができる拠点とする方向で進めたい。フレッシュユウワーク大村の改修については県と協議し、相談室の変更、改修など議員提案に沿った方向で整備を進めたい。

**耕作放棄地の活用策について**

水上 享議員

**Q** 市内に点在する約177haの耕作放棄地を解消するために団塊世代など2・3人の小グループが気軽に農業を体験することができ、新規就農への意欲を持たせるための施策として、シルバー人材センターを活用した農機具（耕運機・管理機等）の貸出制度を設けるべきだ。

**A** 耕作放棄地解消については、農地の貸し借り相談や新規就農相談の中で耕作放棄地の紹介など県や関係団体と連携して取り組んでいきたい。また新規就農者を育てるために国の新しい施策「人・農地プラン」が実施されることにより解決策になるのでは

ないかと考える。農機具リースの件については今後検討したい。

**まちづくり日本一のまちづくりについて**

川添 勝征議員

**Q** 新幹線は平成34年開通見込みである。大村市の活性化は多くのお客様に来ていただくことである。大村にゆかりの深い桜を取り上げ「花の町おむら」を官民協働で、大々的に売り出す施策として大村市のビジョン「さくら日本一のまちづくり」を提唱する。具体的目標として「ツウ・ミリオンプロジェクト」を提案する。

**A** 大村公園の桜は、観光振興に非常に寄与している。公園を拠点としながらも、県道、国道等に植栽をどんどんやっていき、大村を桜でいっぱいにするには、議員提案のとおり市民と一緒にやって市民運動を起こしていかなければ難しい。まずさくら西日本一、150万人の観光客を目指したい。

**「組む」ことこそが地元産品販路拡大の鉄則**

村崎 浩史議員

**Q** 地元産品の販路拡大の支援策として①フェイスブック

を活用した販路拡大を検討してはどうか。(武雄市のF&B良品への参画を含め)②大村市出身の料理人、飲食店オーナーをデータベース化し、協力店舗との連携を図ってはどうか、③ぐるなびが実施している都市のシェフを招いた食材探しツアーの実施を提案するが、いかがか。

**A** ①良品サイトには市としても大変関心を持ち、武雄市のサイトに参入するか市単独で開設するか積極的に検討し取り組みたい。②地元産品の愛用サポーターを確保するために飲食店などを営む大村出身者の情報収集に取りかかりたい。③ぐるなびが取り組んでいるふるさと出身シェフへの食材PRも積極的に検討したい。

**林務行政と郷有林等の団体支援について**

田中 秀和議員

**Q** 地籍調査をスピードアップすることも大事だが、街部よりも山間部を優先して調査を進める考えはないのか。また郷有林について、年間7万円の法人市県民税がかかり、全く収入がない郷有林の所有地区にとっては厳しい負担となっている。委託林や部分林の分収割合の契約は40年前だと

聞いているが見直しはできないか。

**A** 市内全体の地籍調査が完了するのは、今の計画では平成77年となっている。計画を短縮し、山間部を優先することも含めて検討していきたい。部分林、分収林は市内で110カ所程度。数も多くそれぞれの事情で決めた経緯もある。当分は間伐である程度の収益を上げていただきたい。将来的にはよく調査をして考えたい。

**教育・文化・スポーツ**

**国体の準備状況は、問題点はないのか**

三浦 正司議員

**Q** 平成26年に実施される国体に向け、本年4月から国体推進課を設け陣容も充実し、業務も着実に進められていると思われるが、これまでの準備状況はどうか。問題点があれば示してもらいたい。特に国体期間の市内への来訪者数、宿泊者数の見積りと市内の収容能力との関連はどうか。問題があればその対策・処置の考えは。

**A** 現時点での課題は競技会の円滑な運営と交通渋滞対策